Your Reliable Partner

IL8

Intel Pentium 4 システムボード
Socket 775

ユーザーマニュアル

Rev. 1.00

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目　次

第 1 章　はじめに 1-1

1-1.　機能と仕様 1-1

1-2.　レイアウトの図表 1-3

第 2 章　ハードウェアのセットアップ 2-1

2-1.　マザーボードのインストール 2-1

2-2.　CPU、ヒートシンク、ファン部品のインストール 2-2

2-3.　システムメモリの取付け 2-4

2-4.　コネクタ、ヘッダ、スイッチ 2-6

(1).　ATX 電源入力コネクタ 2-6

(2).　FAN コネクタ 2-7

(3).　CMOS メモリクリアリングヘッダ 2-8

(4).　ウェークアップヘッダ 2-9

(5).　フロントパネルオーディオ接続ヘッダ 2-10

(6).　フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ 2-11

(7).　追加 USB ポートヘッダ 2-12

(8).　内部オーディオコネクタ 2-12

(9).　シリアル ATA コネクタ 2-13

(10).　ステータスインジケータ 2-13

(11).　フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ 2-14

(12).　PCI Express x16 スロット 2-15

(13).　PCI Express x1 スロット 2-15

(14).　バックパネルのコネクタ 2-16

第 3 章　BIOS について 3-1

3-1.　SoftMenu Setup 3-2

3-2.　Standard CMOS Features 3-4

3-3.　Advanced BIOS Features 3-6

3-4.　Advanced Chipset Features 3-9

3-5.　Integrated Peripherals 3-11

3-6.　Power Management Setup 3-15

3-7.　PnP/PCI Configurations 3-18

3-8. PC Health Status 3-19
3-9. Load Fail-Safe Defaults 3-20
3-10. Load Optimized Defaults 3-20
3-11. Set Password 3-20
3-12. Save & Exit Setup 3-20
3-13. Exit Without Saving.....3-20

付録 A. ***Intel チップセットドライバのインストール*** *.....A-1*

付録 B. *オーディオドライバのインストール* *.....B-1*

付録 C. ***LAN ドライバのインストール*** *.....C-1*

付録 D. ***USB 2.0 ドライバのインストール*** *.....D-1*

付録 E. ***FlashMenu（BIOS 更新ユーティリティ）*** *.....E-1*

付録 F. ***ABIT EQ（Hardware Doctor ユーティリティ）*** *.....F-1*

付録 G. *トラブルシューティング* *.....G-1*

付録 H. *テクニカルサポートの受け方について* *.....H-1*

第 1 章　はじめに

1-1. 機能と仕様

1. CPU

- 1066/800 MHz FSB を搭載した Intel® 90nm Pentium 4 / Pentium D LGA775 プロセッサ用に設計
- Intel® ハイパースレッドテクノロジ（Hyper-Threading Technology）/ XD-bit / EM64T / EIST テクノロジをサポート

2. チップセット

- Intel® 945P / Intel® ICH7 Express チップセット

3. フレキシブルメモリ

- 4 つの 240 ピン DIMM ソケット（アンバッファ非 ECC DIMM）
- デュアルチャンネル DDR 667/533 サポート（最大 4GB）

4. グラフィックポート

- PCI Express x16 グラフィックポートをサポート

5. ABIT 開発元

- ABIT Passive OTES
- ABIT CPU ThermalGuard™ テクノロジー
- ABIT FanEQ™ テクノロジー
- ABIT SoftMenu™ テクノロジー
- ABIT CPU ThermalGuard™ テクノロジー

6. SATA

- 4 ポート SATA 3.0 サポート
- SATA AHCI をサポートし、ネイティブ・コマンド・キューとネイティブ・ホットプラグを実現

7. オーディオ

- オンボード 7.1 チャンネルオーディオコーデック
- オーディオジャックオートセンシング

8. LAN

- オンボード PCI コントローラが 10/100/1000M イーサネットをサポート

9. 内部 I/O コネクタ

- 1x PCI-Express x16 スロット
- 3x PCI-Express x1 スロット
- 2x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 4x SATA コネクタ
- 1x Ultra DMA 100/66/33 コネクタ
- 2x USB 2.0 ヘッダ
- 1x FP-Audio ヘッダ
- 1x CD-IN ヘッダ

10. 背面パネル I/O

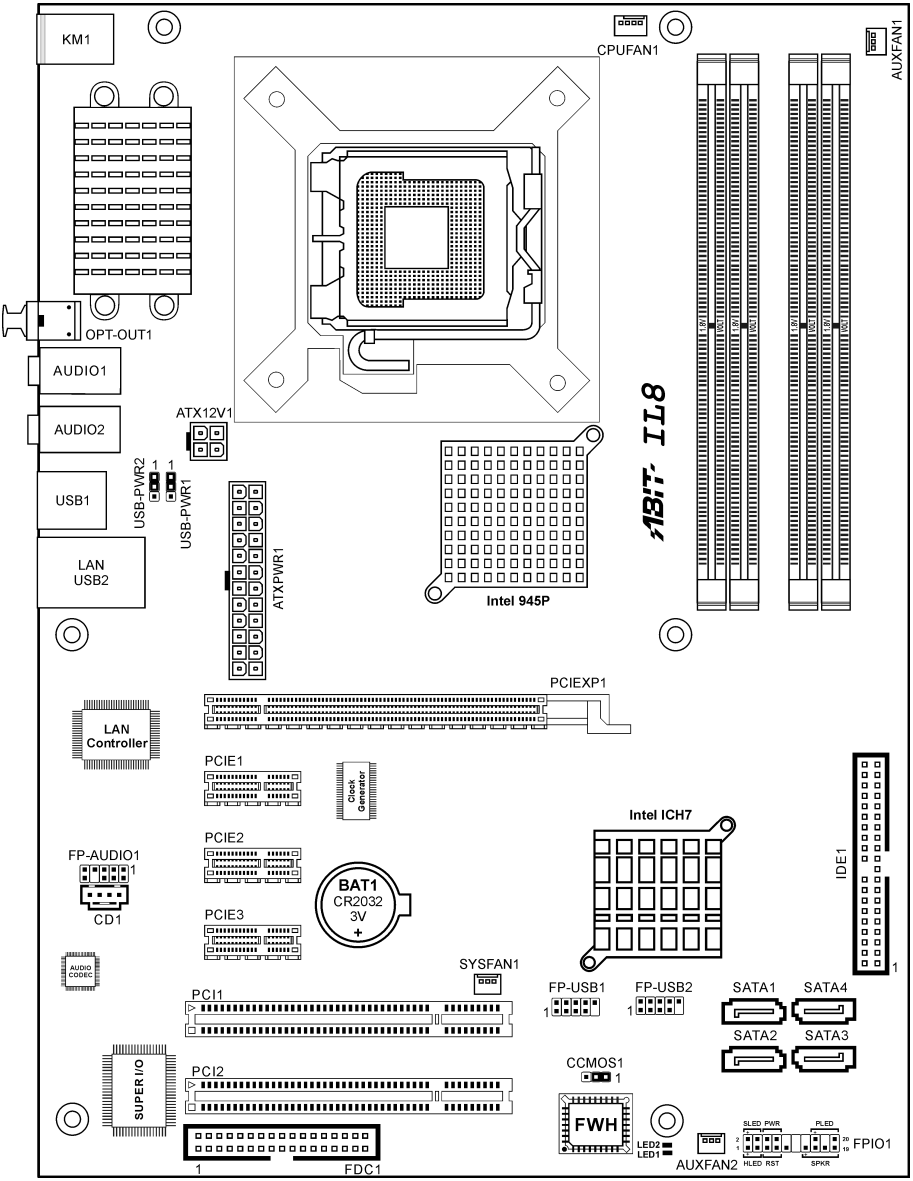
- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- 1x S/P DIF アウトコネクタ
- 1x AUDIO コネクタ（サラウンド左/サラウンド右、リアレフト/リアライト、センター/サブウーファ）
- 1x AUDIO コネクタ（マイクイン、ラインイン、ライン出力）
- 4x USB コネクタ
- 1x RJ-45LAN コネクタ

11. その他

- ATX フォームファクタ（305mm x 225mm）

❋ 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

1-2. レイアウトの図表


KM1
CPUFAN1
AUXFAN1
OPT-OUT1
AUDIO1
AUDIO2
ATX12V1
USB-PWR2
USB-PWR1
USB1
LAN
USB2
ATXPWR1
Intel 945P
8IT-IIB
PCIEXP1
LAN
Controller
PCIE1
Clock
Generator
Intel ICH7
IDE1
PCIE2
FP-AUDIO1
CD1
BAT1
CR2032
3V
PCIE3
AUDIO
CODEC
SYSFAN1
FP-USB1
FP-USB2
SATA1
SATA4
SATA2
SATA3
PCI1
SUPER I/O
PCI2
CCMOS1
FWH
LED2
LED1
AUXFAN2
SLED PWR
PLED
HLED RST
SPKR
FPIO1
FDC1

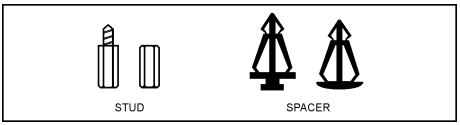
MEMO

第 2 章　ハードウェアのセットアップ

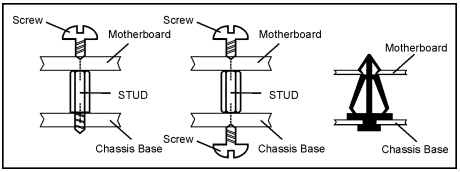
取付けを開始する前に：ATX12V の電源装置のスイッチをオフにする(+5V スタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の 2 つの方法があります。



1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する



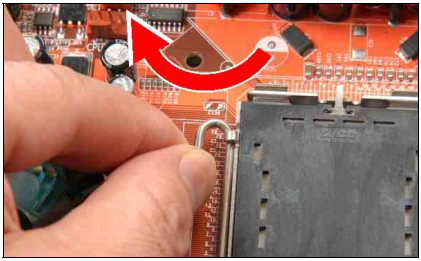
原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができたら、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終えたら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

注意：PCB サーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサがすでにシャーシ台にしっかり取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサを取り外してください。

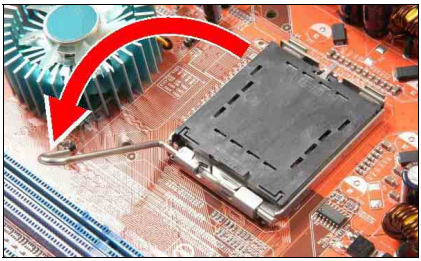
2-2. CPU、ヒートシンク、ファン部品のインストール

接触ピンを保護するため、以下にご注意ください。

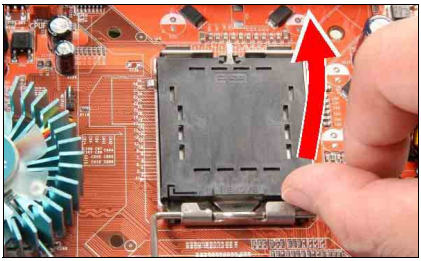
1. *最大 20 周期の CPU インストールをお勧めします。*
2. *指やその他の物で接触ピンに触れないでください。*
3. *CPU を使用していない場合は、常にキャップをかぶせてください。*



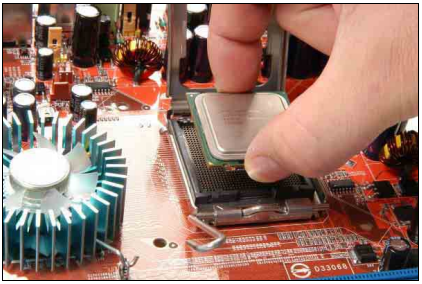
1. ソケットのレバーフックが左側になるようにボードを置いてください。左手の親指と指先でレバーフックを持ち、リテンションタブから引いてください。



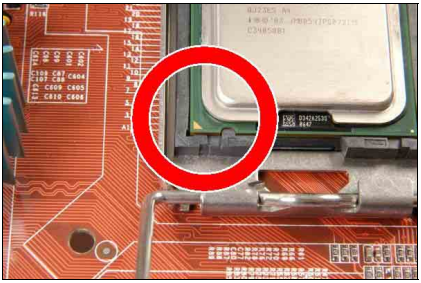
2. レバーを完全に開く位置に回転させてください。



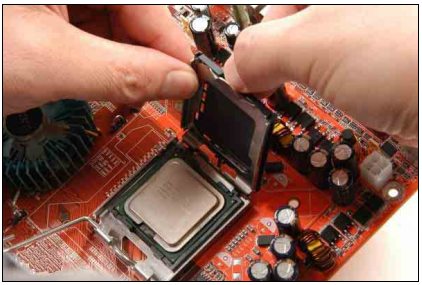
3. プレートの右下に右手の親指をあてがい、完全に開く場所に持ち上げてください。



4. 右手の親指と指先で CPU パッケージを持ってください。必ず基板の端を持ち、ピン 1 の標示が底部左側を向くようにしてください。ソケットの位置を確認し、CPU パッケージをソケットにまっすぐ置いてください。

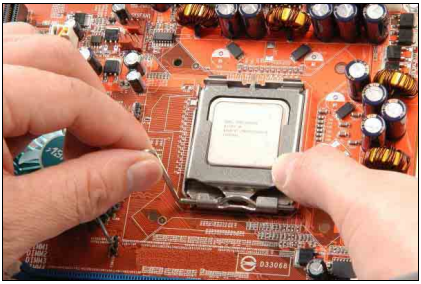


5. CPU がソケットにしっかりと固定されているかどうかを目で確認してください。配列キーはパッケージのノッチにある必要があります。



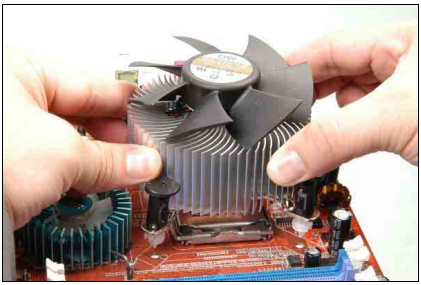
6. 左手でプレートを持ち、右手の親指でキャップを剥がします。

キャップは接触ピンを保護する上で非常に大切です。ピンが曲がらないよう、操作やテストの後はキャップをかぶせておいてください。



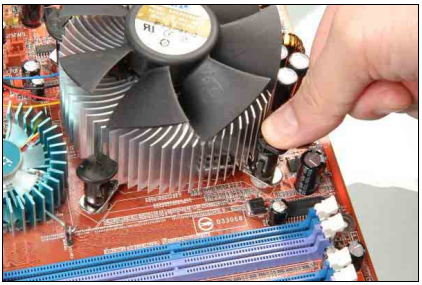
7. CPU パッケージのプレートを提げます。プレートを押しながら、レバーをはめてください。

8. リテンションタブ下のフックでレバーを固定してください。

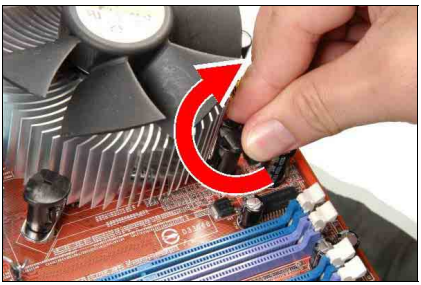


9. ヒートシンクとファン部品をソケットに置いてください。4 つの締め具をマザーボード上の 4 つのマウントホールに向けて並べます。

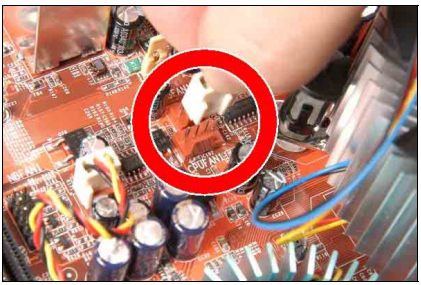
ヒートシンクとファン部品のインストールに関する詳細は、お買い上げのヒートシンクとファン部品の取扱説明書をご覧ください。



10. 4 つの締め具をマウントホールに押し込んでください。



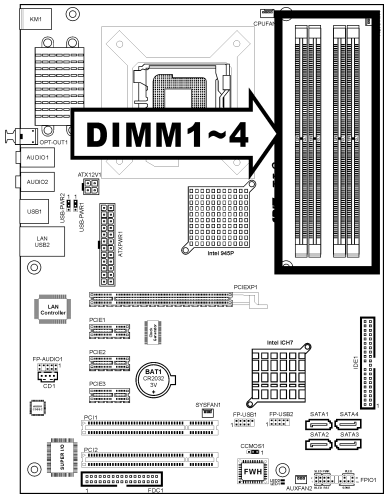
11. 締め具を時計回りに回転させ、ヒートシンクとファン部品を所定の位置に固定してください。

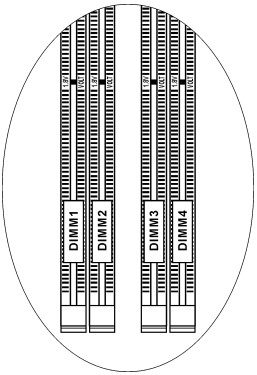


12. 4 ピンの電源プラグをヒートシンクとファン部品から CPU FAN コネクタに接続します。

2-3. システムメモリの取付け

本マザーボードは、4GB までのメモリ拡張サイズを持つ、デュアルチャネル DDR 667/533 メモリモジュール用に、4 つの 240 ピン DDR DIMM スロットを提供します。





- デュアルチャンネル構成で最適のパフォーマンスを達成するには、各チャンネルに対して同じ DDR2 DIMM ペアを取り付けてください。
- 同じ CAS レイテンシーで DIMM を取り付けてください。最適の互換性を達成するには、同じベンダー製のメモリモジュールを入手してください。
- チップセットリソース割り当てにより、システムは 4 つの 1GB DDR2 メモリモジュールの取り付けでは 4GB 以下のシステムメモリしか検出できません。
- チップセット制限により、128MB の DIMM モジュールまたは両面 x16 メモリチップはサポートされません。

DIMM を各システムメモリチャンネルに取り付ける方法によって、数通りの異なる DDR2 構成が可能です。

- [**単一チャンネル**]: 1 つのチャンネルしか取り付けられません。

方式	チャンネル A		チャンネル B	
	DIMM1	**DIMM2**	**DIMM3**	**DIMM4**
1	512MB	-	-	-
2	-	512MB	-	-
3	-	-	512MB	-
4	-	-	-	512MB
5	512MB	512MB	-	-
6	-	-	512MB	512MB

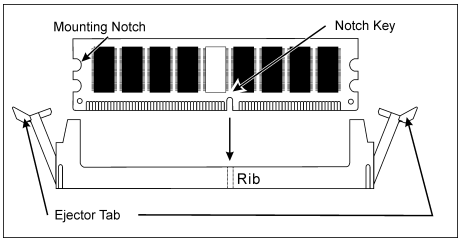
- **[デュアルチャンネル非同期]:** 両方のチャンネルを取り付けられますが、各チャンネルには異なる量の総メモリがあります(チャンネル A≠チャンネル B) 。

方式	チャンネル A		チャンネル B	
	DIMM1	**DIMM2**	**DIMM3**	**DIMM4**
1	512MB	-	256MB	-
2	-	256MB	-	512MB
3	512MB	-	-	256MB
4	-	256MB	512MB	-
5	256MB	256MB	256MB	-
6	256MB	256MB	-	256MB
7	256MB	-	256MB	256MB
8	-	256MB	256MB	256MB
9	256MB	256MB	512MB	512MB
10	256MB	256MB	256MB	512MB

- **[デュアルチャンネル同期]:** 両方のチャンネルを取り付けられ、各チャンネルには同じ量の総メモリがあります(チャンネル A＝チャンネル B)。

方式	チャンネル A		チャンネル B	
	DIMM1	**DIMM2**	**DIMM3**	**DIMM4**
1	512MB	-	512MB	-
2	-	512MB	-	512MB
3	512MB	-	-	512MB
4	-	512MB	512MB	-
5	256MB	256MB	512MB	-
6	256MB	256MB	-	512MB
7	512MB	-	256MB	256MB
8	-	512MB	256MB	256MB
9	512MB	256MB	512MB	256MB
10	256MB	512MB	256MB	512MB

メモリモジュールの取り付け/取り外しを行う前に、コンピュータの電源をオフにして AC 電源コードを抜いてください。



1. ボードの DIMM スロットを探します。
2. DIMM モジュールのコネクタに触らないようにしながら、その両端をそっと持ちます。
3. モジュールのノッチキーをスロットのリブに合わせます。
4. モジュールをスロットにしっかり押すと、スロットの両側のイジェクタタブが取り付けノッチにカチッと音を立てて自動的に固定されます。DIMM モジュールを差し込むときに無理な力を入れないでください。DIMM モジュールは一方向にだけフィットするようになっています。
5. DIMM モジュールを取り外すには、スロットの 2 つのイジェクタタブを同時に外側に押してから、DIMM モジュールを取り出します。

注意: 静電気はコンピュータの電気コンポーネントやオプションのボードを破損する恐れがあります。これらの手順を開始する前に、アースされた金属物質に軽く触れることで、静電気を確実に放電してください。

2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

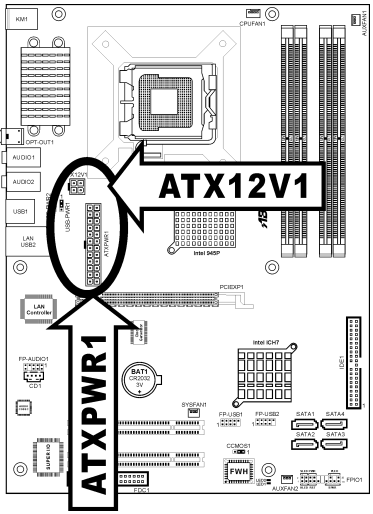
ここには、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第 1 章に示します。

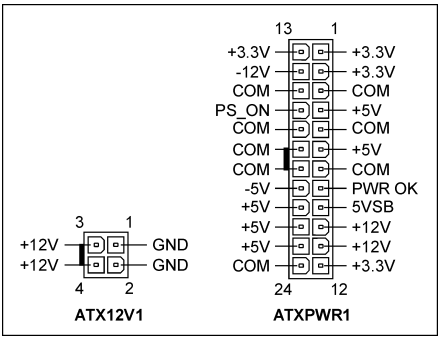
警告 : 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、AC アダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC 電源コードのプラグを差し込んでください。

(1). ATX 電源入力コネクタ

このマザーボードは電源接続のための 2 つの電源コネクタを提供しています。

注 : この 24 ピン電源コネクタ "ATXPWR1" は旧 20 ピンタイプに対応しています。その際、ピンの方向に注意してください（ピン 11、12、23、24 は未接続のままとなります）。



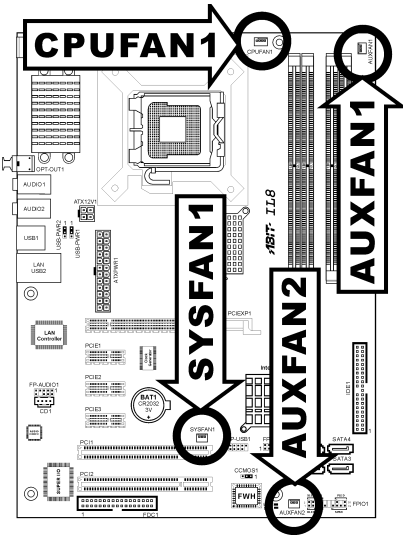


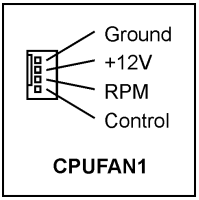
(2). FAN コネクタ

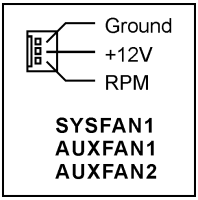
これらコネクタはそれぞれシステムにインストールされたクーリングファンに電源を供給します。

- **CPUFAN1：**CPU ファン電源コネクタ
- **SYSFAN1：**システムファン電源コネクタ
- **AUXFAN1, AUXFAN2：**補助ファン電源コネクタ

警告：これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。



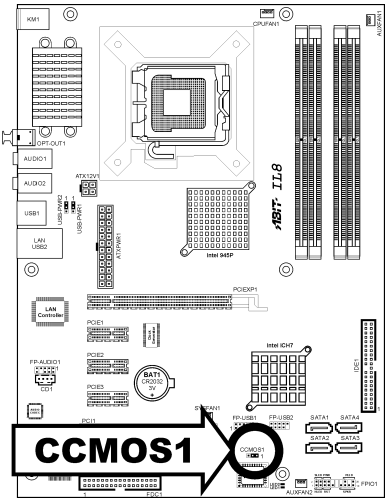


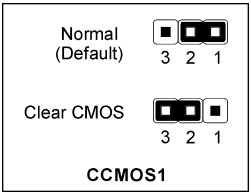


(3). CMOS メモリクリアリングヘッダ

このヘッダはジャンパキャップを使用して CMOS メモリを消去します。

- **短いピン 1-2 (デフォルト) :** 標準操作
- **短いピン 2-3 :** CMOS メモリの消去



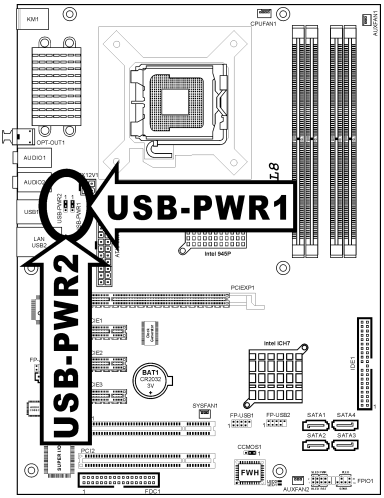


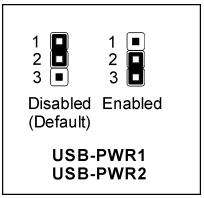
警告 : CMOS メモリをクリーニングする前に、まず(+5V スタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

(4). ウェークアップヘッダ

- **USB-PWR1：**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB1 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート：USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

- **USB-PWR2:**
  ピン 1-2 ショート（デフォルト）：USB2 ポートでのウェークアップ機能を無効にします。
  ピン 2-3 ショート：USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。

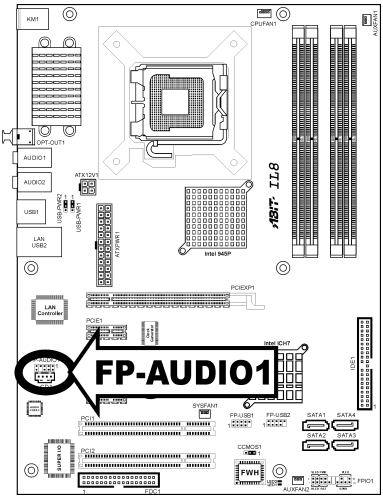


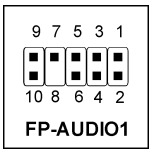


(5). フロントパネルオーディオ接続ヘッダ

このヘッダは、フロントパネルのオーディオコネクタへの接続を提供します。

- フロントパネルでオーディオコネクタを使用するには、このヘッダのすべてのジャンパを取り外し、シャーシに付属する延長ケーブルによってフロントパネルに接続します。
- リアパネルでオーディオコネクタを使用するには、延長ケーブルを切り離し、ジャンパをピン 5-6 とピン 9-10 の後ろに取り付けます（デフォルトの設定）。



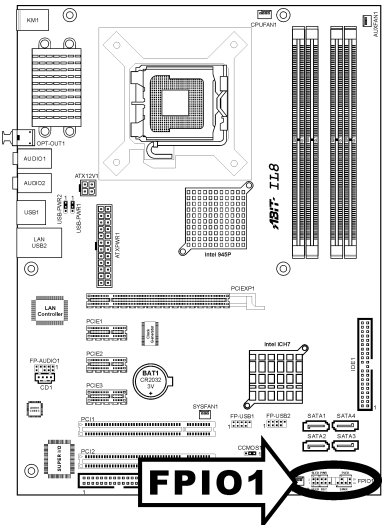


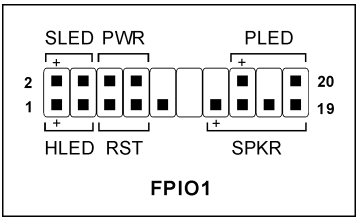
ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
1	オーディオ Mic.	2	アース
3	オーディオMic.バイアス	4	VCC
5	スピーカーアウト右チャンネル	6	スピーカーアウト右チャンネル復帰
7	X	8	NC
9	スピーカーアウト左チャンネル	10	スピーカーアウト左チャンネル復帰

(6). フロントパネルスイッチとインジケータヘッダ

このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことですが、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。

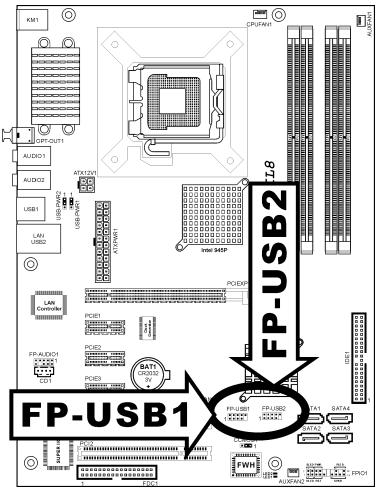


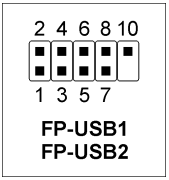


- **HLED（ピン 1、3）：**
  シャーシの前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST（ピン 5、7）：**
  シャーシの前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPKR（ピン 13、15、17、19）：**
  シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED（ピン 2、4）：**
  シャーシの前面パネルのサスペンド LED ケーブルに接続します(ケーブルがある場合)。
- **PWR（ピン 6、8）：**
  シャーシの前面パネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED（ピン 16、18、20）：**
  シャーシの前面パネルの電源 LED ケーブルに接続します。

(7). 追加 USB ポートヘッダ

これらのヘッダは延長ケーブルとブラケットを通して、それぞれ 2 つの追加 USB 2.0 ポートを提供します。

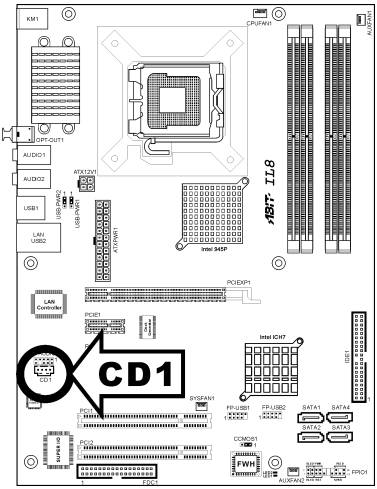


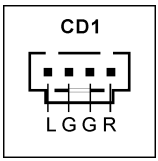


ピン番号	ピン割り当て	ピン番号	ピン割り当て
1	VCC	2	VCC
3	データ 0 -	4	データ 1 -
5	データ 0 +	6	データ 1 +
7	アース	8	アース
9	NC	10	NC

(8). 内部オーディオコネクタ

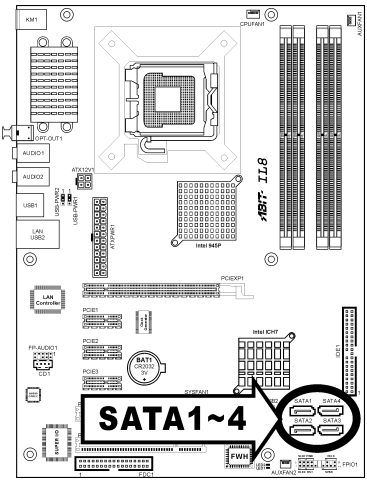
これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続されています。

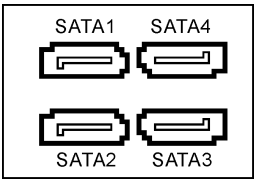




(9). シリアル ATA コネクタ

これらのコネクタは、シリアル ATA ケーブルを介して、各チャネルに 1 つのシリアル ATA デバイスを接続するために提供されています。



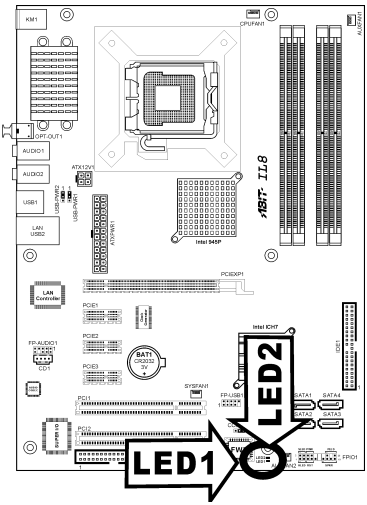


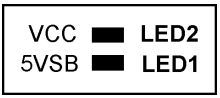
SATA の機能モードの設定方法についての詳細は、BIOS メニューの “On-Chip IDE Device” に含まれる “On-Chip SATA” アイテムをご覧下さい。

(10). ステータスインジケータ

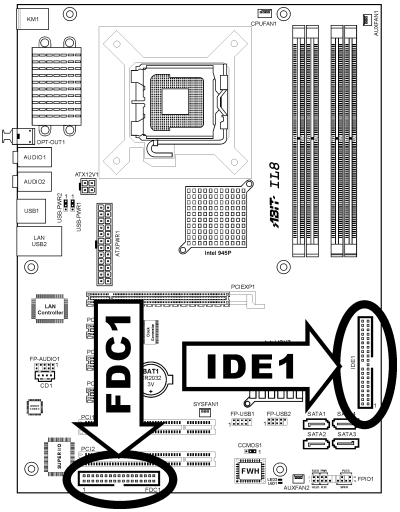
D12 (5VSB): この LED は、電源装置が電源に接続されているときに点灯します。

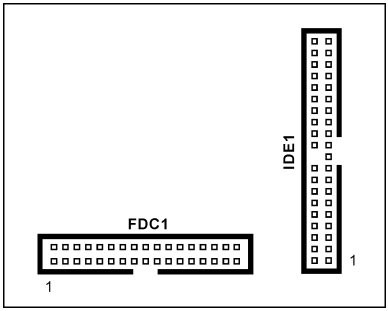
D13 (VCC): この LED は、システムの電源がオンになっているときに点灯します。





(11). フロッピーと IDE ディスクドライブコネクタ



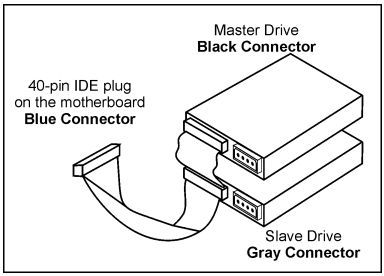


FDC1 コネクタは 34 ワイヤ、2 コネクタフロッピーケーブルで最大 2 つのフロッピードライブを接続することができます。リボンケーブルの長い方にある 1 つのコネクタをボードの FDC1 に接続し、もう片方の 2 つのコネクタをフロッピーディスクドライブに接続してください。通常、システムに必要なフロッピーディスクドライブは 1 つだけです。

注: リボンケーブルの赤い線は FDC1 ポートとフロッピーコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。

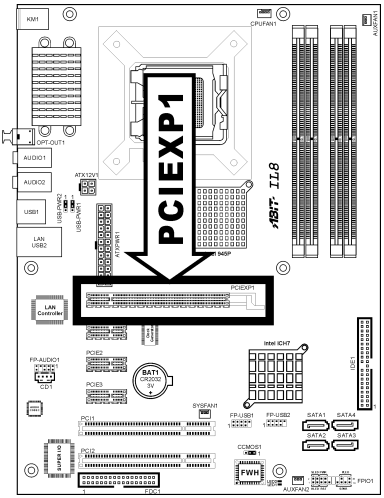
リボンケーブルの長い方の端 (青いコネクタ) をこのボードの IDE ポートに接続し、短い方の端に付いた 2 つのコネクタ (灰色と黒のコネクタ) をハードドライブのコネクタに接続してください。

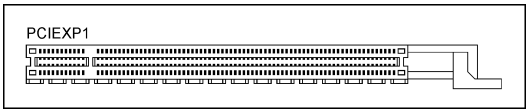
注: リボンケーブルで 2 つのドライブを接続する前に、"Master" と "Slave" 関係を設定してください。リボンケーブルの赤い線は IDE ポートとハードドライブコネクタの両方のピン 1 に合わせる必要があります。



(12). PCI Express x16 スロット

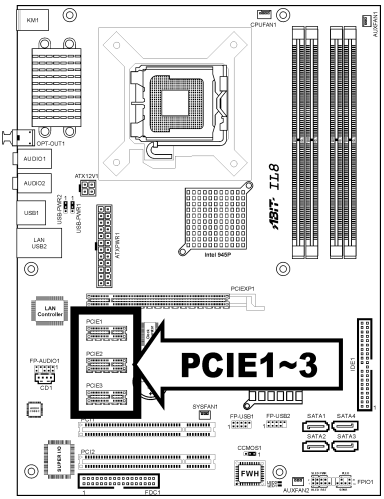
このスロットは、次世代のグラフィック・アーキテクチャ接続用です。

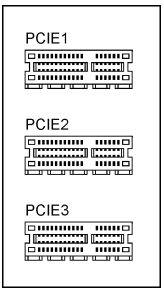




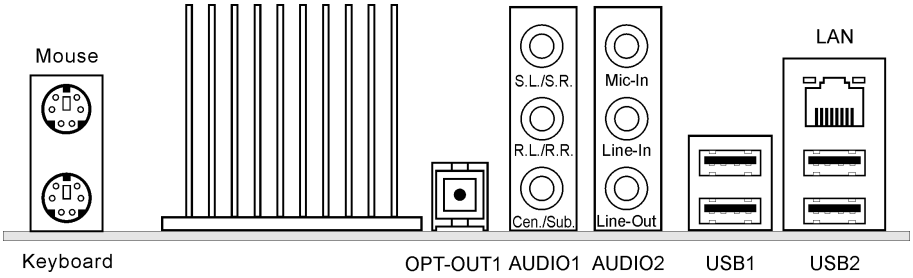
(13). PCI Express x1 スロット

これらのスロットは、次世代の I/O アーキテクチャ接続用です。





(14). バックパネルのコネクタ



- **マウス：**PS/2 マウスに接続します。
- **キーボード：**PS/2 キーボードに接続します。
- **OPT-OUT1：**このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへの S/PDIF アウト接続を提供します。
- **AUDIO1：**
  S.L./S.R.（サラウンド左/サラウンド右）：サラウンド左とサラウンド右チャンネルを 7.1 チャンネルオーディオシステムに接続してください。
- **R.L./R.R.（背面左 / 背面右）：**7.1 チャネルのオーディオシステムの背面左および背面右チャネルに接続します。
  Cen./Sub.（センター / サブウーファ）：7.1 チャネルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャネルに接続します。
- **AUDIO2：**
  Mic In：外部マイクからプラグに接続します。
  Line In：外部オーディオソースからラインアウトに接続します。
  Line Out：7.1 チャネルまたは通常の 2 チャネルオーディオシステムの前面左と前面右チャネルに接続します。
- **LAN：**構内通信網（LAN）に接続します。
- **USB1/USB2：**スキャナ、デジタルスピーカー、モニタ、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

第 3 章　BIOS について

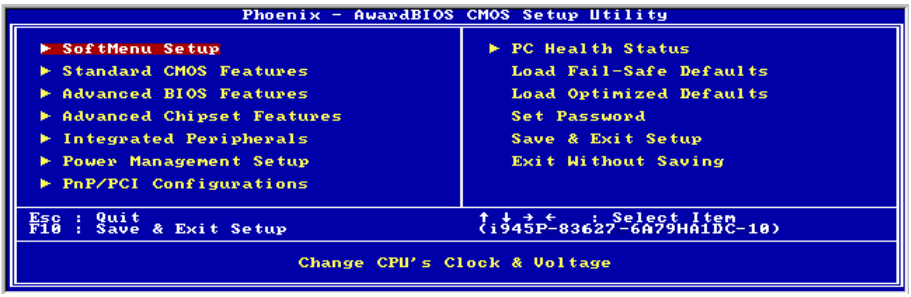
このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときにだけ、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>＋<Alt>＋<Del>キーを押すか、コンピュータシャーシのリセットボタンを押してステムを再起動します。これらの 2 つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

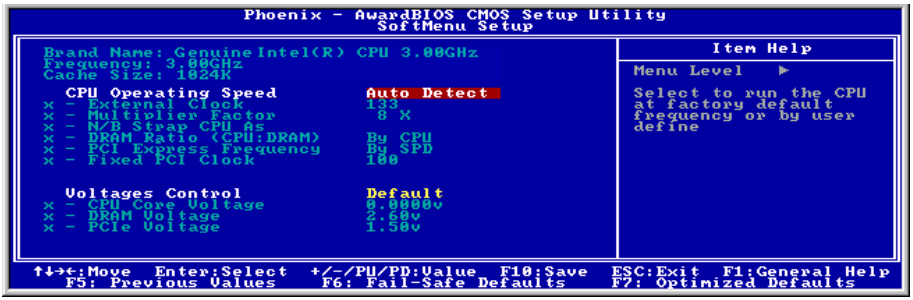
<Del>キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。



注：システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。



Brand Name:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば Pentium (R) 4 を表示します。

Frequency:

本アイテムはプロセッサ速度を表示します。

Cache Size:

本アイテムは CPU の L2 キャッシュサイズを表示します。

CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

User Define:

警告 : クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

❋ **External Clock:**

このアイテムは、外部ロック周波数を選択します。

❋ **Multiplier Factor:**

このアイテムはロックされていなければ、CPU の乗数を選択します。

❋ **N/B Strap CPU As:**

このアイテムは、メモリコントローラハブ（MCH）に割り当てられた外部ハードウェアリセットストラップを設定します。オプションは [PSB533]、[PSB800]と[By CPU]です。デフォルトの設定は[By CPU]です。

このオプションを手動で設定するには、次の手順を実行します。

- 133MHz FSB 周波数の CPU に対して [PSB533] を選択します。
- 200MHz FSB 周波数の CPU に対して [PSB800] を選択します。

❋ **DRAM Spec. (CPU:DRAM):**

このアイテムは、CPU の仕様を決定します。

❋ **PCI Express Frequency:**

このアイテムは、PCI Express の周波数を決定します。

このアイテムは、PCI バス周波数を決定します。このオプションでは、一定の固定周波数で PCI クロックを維持し、システムの安定性の向上を図ります。

Voltage Control:

このアイテムは、システムに供給される電圧を選択します。

次のアイテムを手動で調整するには、「Manual」（手動）オプションを選択します。

❋ **CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

注意：間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

❋ **DRAM Voltage:**

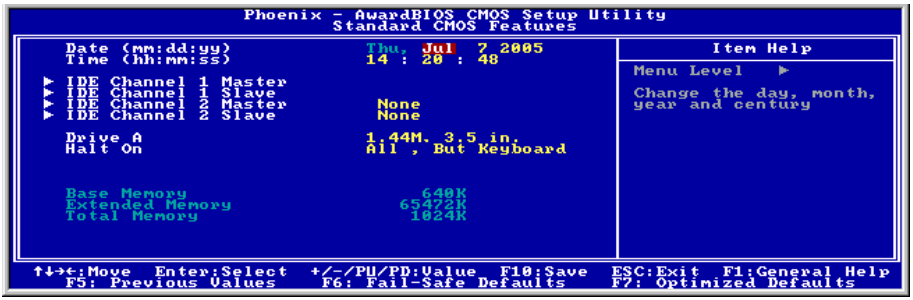
このアイテムは、メモリスロットに供給される電圧を選択します。

❋ **PCIe Voltage:**

このアイテムは、PCIe の電圧を選択します。

3-2. Standard CMOS Features

この選択には、BIOS の基本設定パラメータが含まれます。これらパラメータには日付、時刻、VGA カード、FDD、HDD 設定が含まれます。



Date (mm:dd:yy):

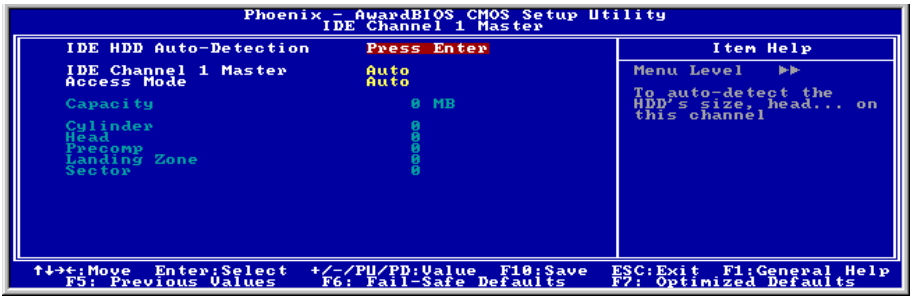
このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

➪ IDE Channel 1Master/Slave、IDE Channel 2 Master/Slave、IDE Channel 3 Master/Slave、IDE Channel 4 Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



注: “IDE Channel 3 Master/Slave” と “IDE Channel 4 Master/Slave” のアイテムは、“On-Chip IDE Device” メニューの “On-Chip SATA” が [Enhanced Mode] に設定されている場合か、または SATA ポートがデバイスに接続され、[Auto Mode] に設定されている場合にのみ表示されます。

IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面上に自動的に表示されます。

IDE Channel 1 Master/Slave, IDE Channel 2 Master/Slave, Extended IDE Drive:

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラメータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなっています。

Cylinder:

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head:

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp:

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

Landing Zone:

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

Sector:

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

➪ Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります：

Drive A:

このアイテムは取り付けたフロッピードライブのタイプを設定します。

Halt On:

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]: システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]: システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]: システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]: システムブートは、ディスケットエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]: システムブートは、ディスケットまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory:

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory:

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory:

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3-3. Advanced BIOS Features

Hyper-Threading Technology

このアイテムは、ハイパースレッド･テクノロジーを搭載したプロセッサの機能を可能にし、このタイプのプロセッサを使用している場合にのみ表示されます。

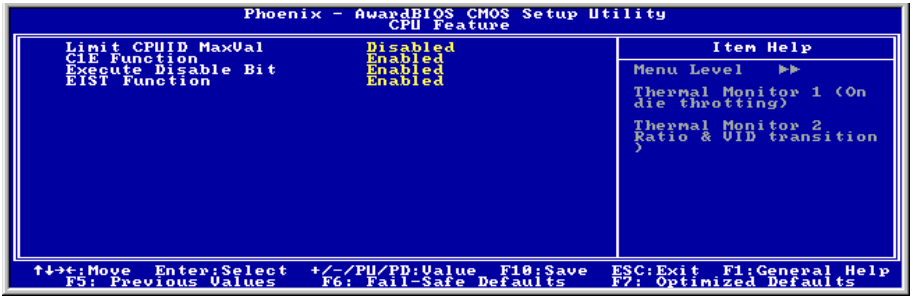
ハイパースレッド･テクノロジーは、プロセッサのリソースを最大化することでパソコンの性能を向上し、1 つのプロセッサで 2 つの独立したソフトウェアスレッドを同時に稼動させることを可能にします。このため、複数アプリケーションを実行中に従来の 4 倍のシステム性能と反応を実現させることができます。

Quick Power On Self Test:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト(POST)の速度を上げます。BIOS は POST の間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

➪ CPU Feature:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



Limit CPUID MaxVal

[Enabled]に設定しているとき、このアイテムは通常、Windows NT4.0 のような古い OS で要求される CPUID の最大値を 3 に制限します。

Windows XP のような OS に対しては、このアイテムをデフォルトの[Disabled]設定のままにしておいてください。

C1E Function

このアイテムは、C1E（Enhanced Halt State）機能のあるプロセッサでのみ表示されます。デフォルトは *Auto（自動）*です。プロセッサが全体的な消費電力を削減します。

Execute Disable Bit

このアイテムは、エグゼキュート・ディスエーブル・ビット（XD ビット）機能のあるプロセッサでのみ表示されます。[Enabled] に設定すると、このアイテムによって、プロセッサは、データページが不正なソフトウェアによって使用され、コードを実行されることを防ぎ、メモリ保護を行います。

EIST Function

このアイテムは、EIST（拡張版インテル SpeedStep テクノロジ）機能のあるプロセッサでのみ表示されます。[Enabled] に設定すると、EIST が、複数の周波数と電圧のポイントを動的に切り換え、必要に応じてプロセッサとシステムの電力と性能のバランスを最適化します。

➪ Advanced BIOS Features Setup Menu に戻ります：

Hard Disk Boot Priority:

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用に選択することができます。

このアイテムは、1 次/2 次/3 次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第 1 ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第 2 ブートデバイス)、[Third Boot Device](第 3 ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第 1、第 2、第 3 ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の 3 つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Boot Up Floppy Seek:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、BIOS はフロッピーディスクドライブがインストールされているかどうかをチェックします。

Boot Up NumLock Status:

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On]：数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off]：矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Security Option:

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき – システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

注：パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

MPS Version Ctrl For OS:

この項目は、このマザーボードが使用する MPS（多重プロセッサ仕様）のバージョンを指定します。このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

Report No FDD For WIN 95:

[Yes] (はい) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

Delay IDE Initial (Secs):

このアイテムにより、BIOS は遅延時間を引き延ばすことによって一部の古いまた特殊な IDE デバイスをサポートすることができます。値を大きくすると、デバイスを初期化したり動作できる準備をするための遅延時間が長くなります。

Full Screen LOGO Show:

この項目は追い出すとき全画面のロゴを示すことを定まる。

3-4. Advanced Chipset Features

DRAM Timing Selectable:

この項目は、次の 4 つの項目に対し、使用しているメモリモジュールに従って、最適のタイミングを設定します。デフォルトの設定「SPD による」は、SPD（シリアルプレゼンスの検出）デバイスのコンテンツを読み取ることによって、これら 4 つの項目を構成します。メモリモジュール上の EEPROM は、メモリの種類、サイズ、速度、電圧インターフェイス、およびモジュールバンクなどの、モジュールに関するクリティカルパラメータ情報を格納します。

❋ **CAS Latency Time:**

この項目は、DRAM 読み取りコマンドとデータが実際に使用できる時間との間の待ち時間を制御します。

❋ **RAS# to CAS# Delay**

この項目は DRAM アクティブコマンドと読み取り/書き込みコマンドの間の待ち時間を制御します。

❋ **RAS# Precharge:**

プリチャージコマンドを DRAM に発行するとこの項目はアイドルクロックをコントロルします。

❋ **Precharge Delay (tRAS):**

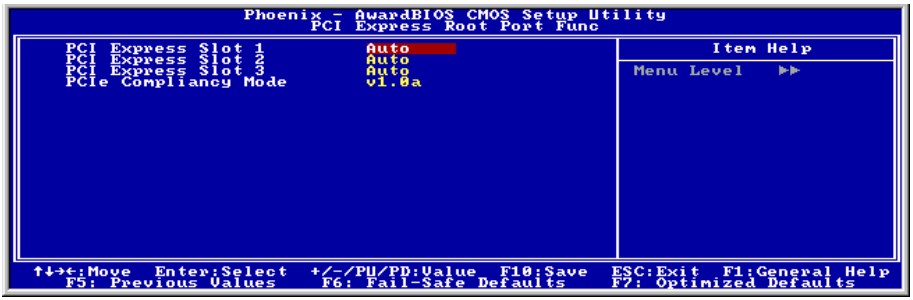
このアイテムは、DRAM パラメータで使用する DRAM クロックの番号を制御します。

Memory Hole At 15M-16M:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、15M-16M のメモリアドレススペースがこの設定を特別に要求する ISA 拡張カード用に予約されます。これにより、システムで利用できない 15MB 以上のメモリが作成されます。このアイテムは、デフォルトの設定のままにしておいてください。

➪ PCI Express Root Port Func:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



PCI Express Slot 1 ~ PCI Express Slot 3:

このオプションは PCI Express ポート機能を有効または無効にします。

PCI-E Compliancy Mode:

このアイテムは PCI Express 拡張カードのモードを選択します。

➪ Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります：

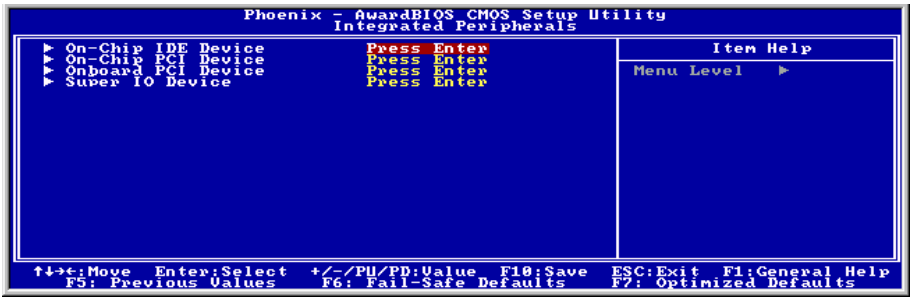
PEG Force X1:

[Enabled]に設定するとき、このアイテムは PEG ポートを x1 モードに強制的に落とします。

Init Display First:

このアイテムはシステム起動時に "PCI Express Slot" から起動するか、または "PCI Slot" から起動するかを選択します。

3-5. Integrated Peripherals



↳ OnChip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

IDE Bus Master:

このオプションは、DOS 環境の下で IDE バスマスタリング機能の有効/無効を切り替えます。

On-Chip IDE-1 Controller:

このアイテムは、IDE-1 コントローラを有効または無効にします。

On-Chip SATA Controller:

この項目は、オンチップシリアル ATA の機能を決定します。

[Disabled（無効）]: シリアル ATA コントローラを無効にします。

[Auto（自動）]: シリアル ATA コントローラを BIOS によって自動的に配列できます。

[Combined Mode（結合モード）]: パラレル ATA とシリアル ATA がともに結合されます。最高 4 つの IDE ドライブをサポートします。

[Enhanced Mode（拡張モード）]: パラレル ATA とシリアル ATA をともに有効にします。最高 6 つの IDE ドライブをサポートします。

[SATA Only（SATA のみ）]: SATA はレガシーモードで動作します。

注:このオプションは [SATA Mode] が [IDE] に設定されている場合のみ設定可能となります。

モード	IDE チャンネル 1 マスター	IDE チャンネル 1 スレーブ	IDE チャンネル 2 マスター	IDE チャンネル 2 スレーブ	IDE チャンネル 3 マスター	IDE チャンネル 3 スレーブ	IDE チャンネル 4 マスター	IDE チャンネル 4 スレーブ
Enhanced (エンハンス)	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	なし	なし	SATA1	SATA3	SATA2	SATA4
Combined (混合)	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	SATA2	SATA4	なし	なし	なし	なし
SATA Only (SATA のみ)	SATA1	SATA3	SATA2	SATA4	なし	なし	なし	なし

注: [Enhanced Mode] のオプションは Windows 98/ME オペレーティング･システムには対応していません。

❋ **Parallel ATA Mode:**

このアイテムは "IDE1" コネクタの機能モードを決定します。

[IDE-1]: “IDE1” コネクタが [Primary Master] と [Primary Slave] チャンネルとして働きます。“SATA2” と "SATA4" コネクタが [Secondary Master] と [Secondary Slave] チャンネルとして働きます。残りの “SATA1” と “SATA3” コネクタは無効です。

[IDE-2]: “IDE1” コネクタが [Secondary Master] と [Secondary Slave] チャンネルとして働きます。“SATA1” と "SATA3" コネクタが [Primary Master] と [Primary Slave] チャンネルとして働きます。残りの “SATA2” と “SATA4” コネクタは無効です。

IDE と SATA ポートの関係については下表を参照してください。

PATA IDE モード	IDE チャンネル 1 マスター	IDE チャンネル 1 スレーブ	IDE チャンネル 2 マスター	IDE チャンネル 2 スレーブ	IDE チャンネル 3 マスター	IDE チャンネル 3 スレーブ	IDE チャンネル 4 マスター	IDE チャンネル 4 スレーブ
Primary (プライマ)リ	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	SATA2	SATA4	なし	なし	なし	なし
Secondary (セカンダリ)	SATA1	SATA3	IDE1 マスター	IDE1 スレーブ	なし	なし	なし	なし

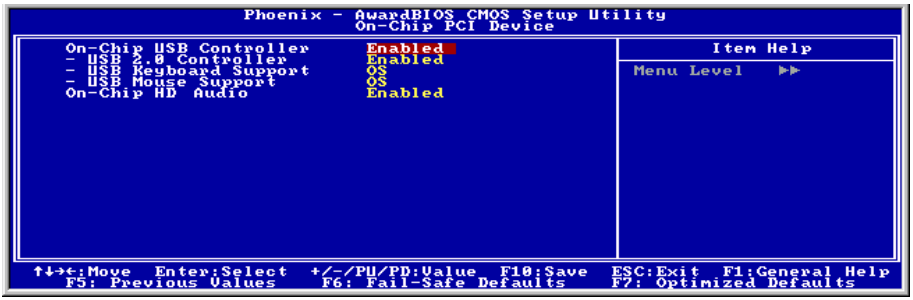
注: このオプションは、[On-Chip SATA] が [Combined Mode] に設定されている場合のみ設定可能です。

❋ **Serial ATA Mode**

このアイテムは Serial SATA ポートの様々なモードを表示します。

✎ On-Chip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



On-Chip USB Controller:

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

❋ **USB 2.0 Controller:**

このアイテムはオンボード USB 2.0 コントローラを使用できるようにします。

❋ **USB Keyboard Support:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB キーボードを使用するための[**BIOS**]を、または、または OS 環境では[**OS**]を選択することができます。

❋ **USB Mouse Support:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[**BIOS**]を、または、または OS 環境では[**OS**]を選択することができます。

On-Chip HD Audio:

[Enabled]: オンチップオーディオコントローラを有効にします。

[Disabled]: PCI サウンドカードを使用しているとき、オンチップオーディオコントローラを無効にします。

Onboard PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Onboard LAN Controller :

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

❋ **Invoke Boot Agent:**

このアイテムにより、（ディスクドライブの代わりに）ブート ROM を使用して、システムを起動し、構内通信網に直接アクセスできます。

SuperIO Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

Onboard FDD Controller:

[Enabled]: オンボードフロッピーディスクコントローラを有効にします。

[Disabled]: オンボードフロッピーディスクコントローラを無効にします。

Onboard Serial Port :

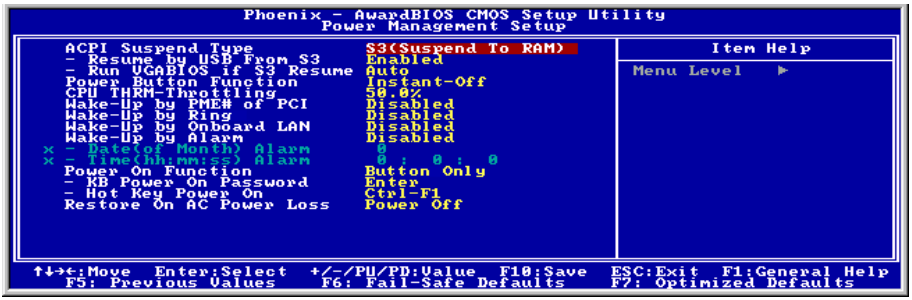
このアイテムは、どの I/O アドレスにオンボードのシリアルポートコントローラがアクセスするかを決定します。

[Auto] : システムは、オンボードシリアルポートの I/O アドレスを自動的に選択します。

[3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3] : オンボードシリアルポートの I/O アドレスを手動で選択できるようにします。

[Disabled] : オンボードシリアルポートを個別にまたは同時に使用不可能に設定します。

3-6. Power Management Setup



ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(PowerOn-Suspend)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(Suspend-To-RAM)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

❋ **Resume by USB From S3:**

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムにより USB デバイスを使用して S3 (STR – RAM にサスペンド)状態にあるシステムを呼び起こすことができます。このアイテムは、アイテム“ACPI サスペンドタイプ”が [S3(STR)] に設定されているときのみ構成できます。

❋ **Run VGABIOS if S3 Resume**

次の 3 つのオプションが指定できます: Auto（自動） ➔ Yes（はい） ➔ No（いいえ）。デフォルトは *Auto（自動）* です。このアイテムにより、いつ S3 レジュームをアクティブにするか、VGA BIOS を開始する必要があるかどうかを選択することができます。

Power Button Function:

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.]: 電源ボタンを 4 秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押したりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off]: 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

CPU THRM-Throttling

このアイテムは、STR (RAM へのサスペンド) 状態の間、その通常の電力をあるパーセンテージに切り下げることで CPU 速度を制御します。

Wake-Up by PME# of PCI:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

Wake-Up by Ring:

次の 2 つのアイテム、Disabled（使用しない）または Enabled（使用する）が設定できます。デフォルトは *Disabled（使用しない）*です。*Enabled（使用しない）*に設定するとき、モデムリングに影響を及ぼすイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起こします。

Wake-Up by Onboard LAN:

[有効]に設定しているとき、呼び起こし機能をサポートする LAN カードを介し、ソフトオフ状態で PC をリモートから呼び起こすことができます。

Wake-Up by Alarm:

[Enabled] (**使用可能**) に設定すると、“**日 (月の) アラーム**”および“**時 (hh:mm:ss) アラーム**”アイテムでソフトオフ PC の電源をオンにしたい日と時間を設定できます。ただし、システムがこれらのアイテムで設定された日と時間より前に入電またはネットワーク(レジュームオンリング/LAN)によりアクセスされると、システムは入電やネットワークに優先順位を与えます。

❋ **Date (of Month) Alarm**

[0]: このオプションは、“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に従って毎日システムの電源をオンにします。

[1-31]: このオプションは、システムの電源をオンにする日を選択します。システムは設定された日、および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に電源がオンになります。

❋ **Time (hh:mm:ss) Alarm**

このアイテムは、システムの電源をオンにする時間を設定します。

POWER ON Function:

このアイテムは、システムの電源をオンにする方法を選択します。

[Password]: パスワードを使用してシステムの電源をオンにします。このオプションを選択してから、<Enter>を押してください。パスワードを入力してください。最大 5 文字まで入力できます。正確に同じパスワードを入力して確認したら、<Enter>を押します。

[Hot KEY]: <F1> から <F12>までのどれかの機能を使用して、システムの電源をオンにします。

[Mouse Move]: マウスを動かしてシステムをオンにします。

[Mouse Click]: マウスボタンをダブルクリックしてシステムをオンにします。

[Any KEY]: キーボードの任意のキーを使用して、システムの電源をオンにします。

[Button Only]: 電源ボタンのみを使用して、システムの電源をオンにします。

[Keyboard 98]: “Keyboard 98”互換キーボードの電源オンボタンを使用して、システムの電源をオンにします。

注：この「電源オン」機能を有効にするには、[USB-PWR1]、[USB-PWR2]の呼び起こしヘッダを[Enabled（有効）]の位置に設定する必要があります。第 2 章、2-4 項の「呼び起こしヘッダ”の構成を参照してください。

マウスの呼び起こし機能は、COM ポートや USB タイプではなく、PS/2 マウスでのみ使用可能です。一部の PS/2 マウスの中には、互換上の問題が理由で呼び起こしができないものもあります。キーボードの仕様があまりにも古いと、電源をオンにできないことがあります。

❋ **KB Power ON Password:**

このアイテムは、コンピュータの電源をオンにするために必要なパスワードを設定します。

注：パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

❋ **Hot Key Power ON:**

このアイテムは、<Ctrl>キーと機能キー(<F1> ~ <F12>)のどれかを同時に押すことによって、システムの電源をオンにします。

Restore On AC Power Loss:

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off]: AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。.

3-7. PnP/PCI Configurations

Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

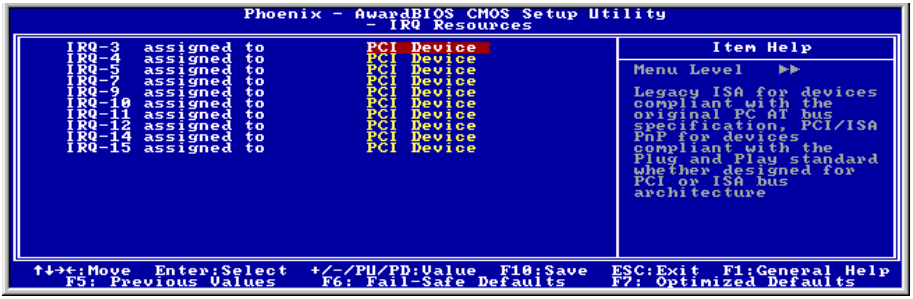
[Auto]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

❋ **IRQ Resources:**

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス] または [予約済み]に設定します。



PCI/VGA Palette Snoop:

このアイテムは､MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

PIRQ_0 Use IRQ No. ~PIRQ_7 Use IRQ No. :

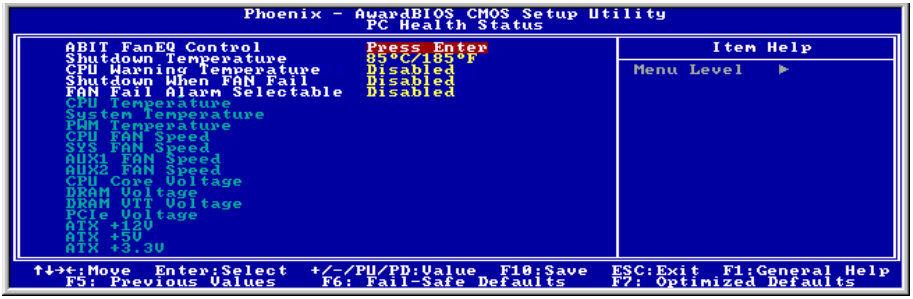
このアイテムは PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

PIRQ (ICH チップセットからの信号)､INT# (PCI スロット IRQ 信号のことです) のハードウェアレイアウト間の関係については､下の表を参照してください。

Maximum Payload Size:

このアイテムは、PCI Express デバイスに対して最大の TLP プレイロードサイズを設定します。

3-8. PC Health Status



ABIT FanEQ Control:

<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ABIT FanEQ をコントローラことができます。

Shutdown Temperature:

このアイテムは、システムが過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

CPU Warning Temperature:

このアイテムは、CPU の警告温度の限界を選択します。システムが CPU の温度が限界を超えていることを検出すると、警告音が鳴ります。

注 : オンボードハードウェア監視機能は、これらのシステムヘルス状態を検出できます。異常な状態が発生したとき、警告メッセージを表示したり警告アラームを鳴らしたい場合、“ハードウェアドクター”ユーティリティをインストールする必要があります。このユーティリティは本マザーボードに付属する“ドライバとユーティリティ CD”に含まれています。

Shutdown When FAN Fail:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、システムは CPU ファンが作動していないときに停止します。

FAN Fail Alarm Selectable:

このアイテムは、誤動作を監視するファンを選択します。

All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:

CPU と環境の温度、ファンの回転速度、システムの電源の電圧を表示します。これらの値は変更できません。

注:温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。

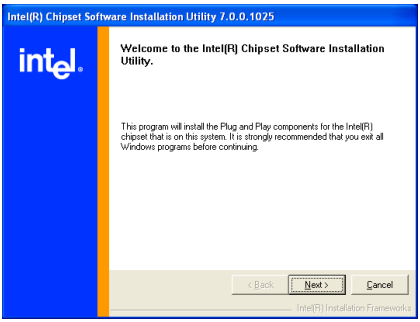
付録 A. Intel チップセットドライバのインストール

注：Windows オペレーティングシステムをインストールした後、まず Intel チップセットドライバをインストールしてください。

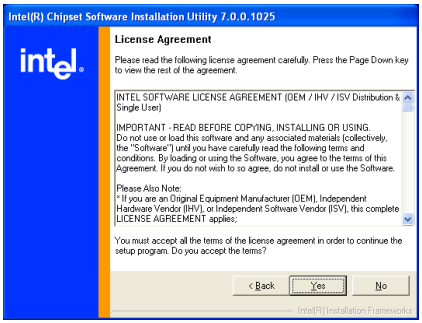
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

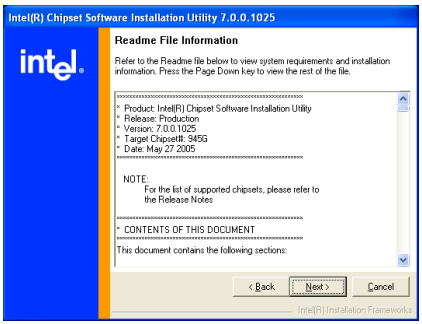
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[Intel Chipset Software Utility]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



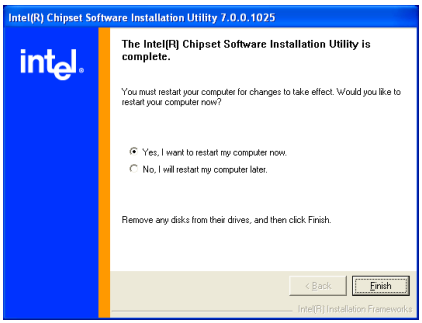
1. ［次へ］をクリックします。



2. ［はい］をクリックします。



3. ［次へ］をクリックします。



4. ［はい、今すぐコンピュータを再起動します］を選択されるようお勧めします。[終了]をクリックしてインストールを終了します。

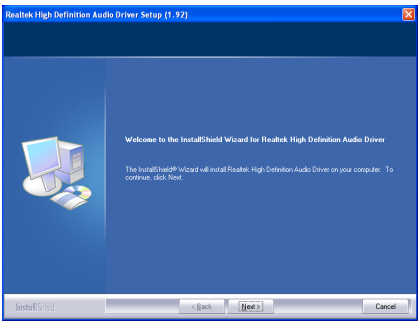
MEMO

付録 B.　オーディオドライバのインストール

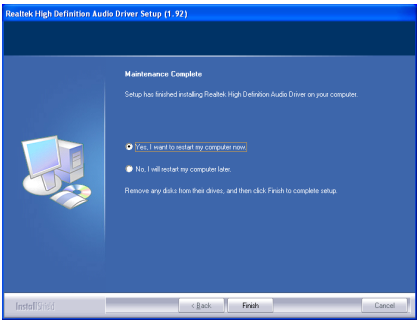
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[オーディオドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1.　［次へ］をクリックします。’



2.　[はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。

注：Microsoft Windows Server 2003 Service Pack 1 / Windows Server 2003 x64 エディション / Windows XP Professional x64 エディションについては、Microsoft のウェブサイト(www.microsoft.com)で更新をインストールして、インテル・ハイ・デフィニション・オーディオ・ドライバの問題を解決してください。

- Update for Windows Server 2003 (KB901105)
- Update for Windows Server 2003 x64 Edition (KB901105)
- Update for Windows XP x64 Edition (KB901105)

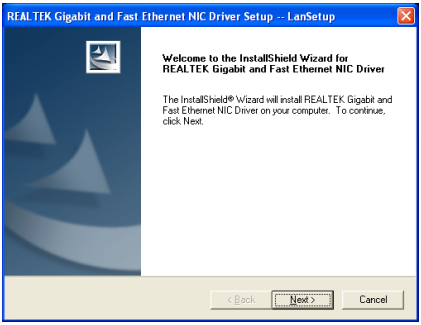
MEMO

付録 C. LAN ドライバのインストール

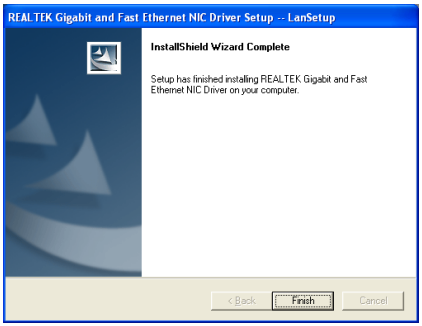
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[LAN ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. ［次へ］をクリックします。



2. [終了]をクリックしてインストールを終了します。

MEMO

付録 D. USB 2.0 ドライバのインストール

注 : Windows XP / Windows 2000 用 USB 2.0ドライバをインストールするには、最新の SP2 (サービスパック 2) / SP4 (サービスパック 4) 以降のバージョンを Microsoft のウェブサイトからダウンロードしておく必要があります。

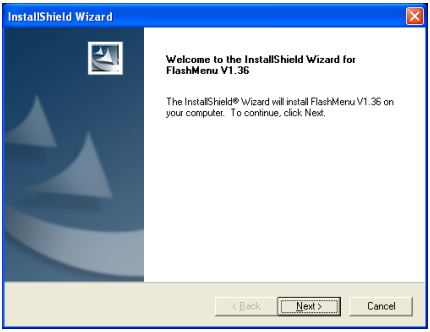
MEMO

付録 E.　FlashMenu（BIOS 更新ユーティリティ）

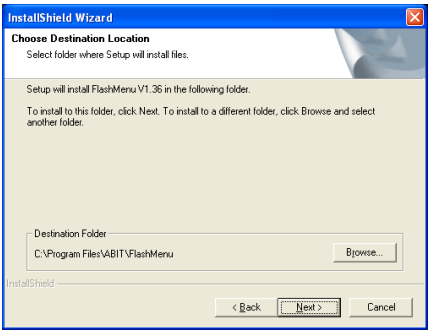
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

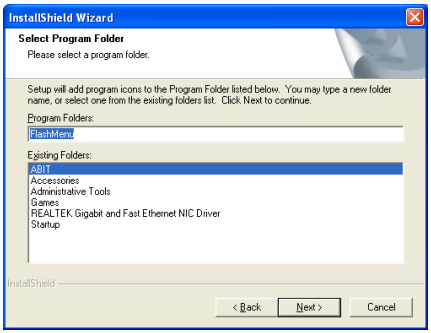
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT ユーティリティ] タブに移動します。[FlashMenu]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



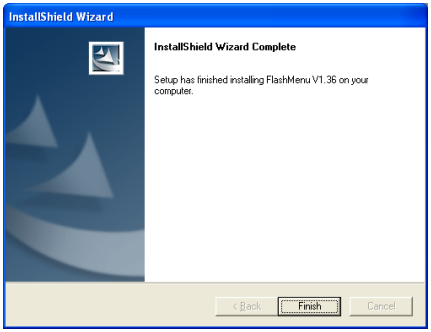
1.　［次へ］をクリックします。



2.　［次へ］をクリックします。



3.　［次へ］をクリックします



4.　[終了]をクリックしてインストールを終了します。

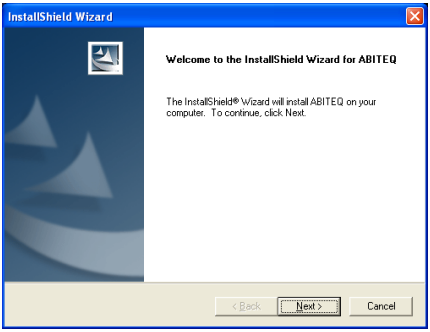
MEMO

付録 F.　ABIT EQ（Hardware Doctor ユーティリティ）

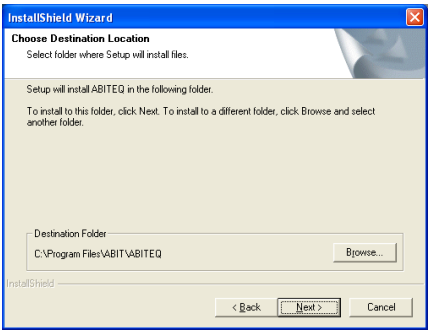
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows XP オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

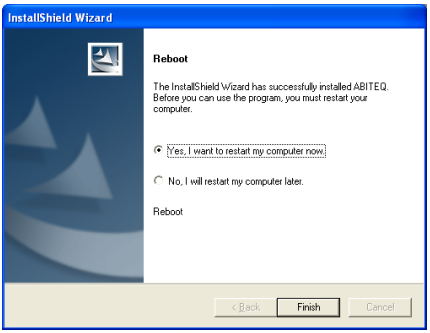
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT ユーティリティ] タブに移動します。[ABITEQ] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



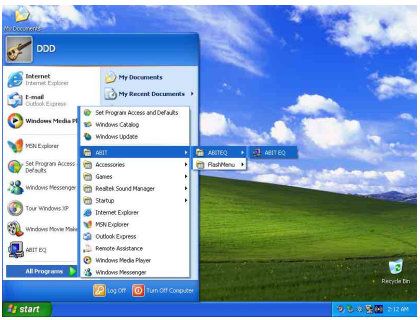
1.　［次へ］をクリックします。



2.　［次へ］をクリックします。



3.　[はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



4.　Windows ツールバーをポイントしてを ABIT EQ 実行し、［スタート］➔ ［プログラム］➔ ［ABIT］➔ ［ABIT EQ］を順にクリックします。

MEMO

付録 G. トラブルシューティング

Q & A:

Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお薦めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

Q: 機械の電源を切ったすぐ後に、システムが起動しないのですが?

A: 電源を切った後は、最低 30 秒間待ってから再度電源を入れてください。

Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。これでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メーンボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せずに、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

例 1： マザーボード（CPU, DRAM, COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

それでも起動しない場合：

他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうか試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、“**問題の説明**”欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

起動する場合：

取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、"その他のカード"の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、およびを問題についての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

例 2： マザーボード（CPU, DRAM, COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

CONFIG.SYS:
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN
DOS=HIGH, UMB
FILES=40
BUFFERS=36
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFGMG.SYS
LASTDRIVE=Z

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、"問題の説明"欄に詳しい説明を記入してください。

テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。

主な注事項...

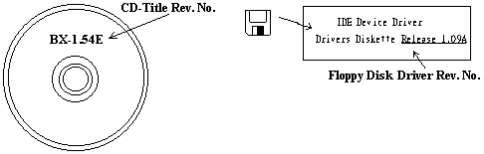
［テクニカルサポート用紙］に必要事項を記入する場合、次の注事項を守ってください。

1*. モデル名：ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。
例：IL8

2*. マザーボードのモデル番号（REV）：マザーボードに［REV:*.** ］と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。
例：REV: 1.00

3*. BIOS ID および部品番号：オンスクリーンのメッセージをご覧ください。

4. ドライババージョン：デバイスドライバのディスク（もしあれば）に［Release *.**”］などと記されているバージョン番号を記入します。



5*. OS／アプリケーション：使用しているOSおよびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。
例：MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT....

6*. CPU：CPUのメーカー名および速度（MHz）を記入します。
例：（A）［メーカー名］の欄には［Intel］、［仕様］の欄には［Pentium® 4 1.9GHz］と記入します。

7. HDD：HDDのメーカー名、仕様、☐IDE1および☐IDE2のどちらで使用しているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、［☐］をチェック（“✓”）してください。チェックがない場合は、［☑IDE1］マスターとみなします。
例:［HDD］の蘭のボックスをチェックし、メーカー名には［Seagate］、仕様の欄には［ST31621A（1.6GB）］と記入します。

8. CD-ROMドライブ：CD-ROMドライブのメーカー名、仕様、☐IDE1および☐IDE2のどちらで使用しているかを記入します。また、“☐”をチェック（“✓”）してください。チェックがない場合は、“☑IDE2”マスターとみなします。
例：“CD-ROMドライブ”の欄のボックスをチェックし、メーカー名には“Mitsumi”、仕様の欄には“FX-400D”と記入します。

9. システムメモリ（DDR SDRAM): システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CASレイテンシ、速度（MHz)のような、仕様（DDR DIMM）を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。
密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度（MHz): 200 MHz.
お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。

10. その他のカード：問題に関係しているのが“絶対確実である”カードを記入します。
問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。

注意：［*］の項目は必ず記入してください。

テクニカルサポート用紙

会社名：　　電話番号：

連絡先：　　ファックス番号：

E-mail：

モデル名	*	BIOS ID #	*
マザーボードの モデル番号		ドライババージョン	
OS／アプリケーション	*		
ハードウェア名	メーカー名	仕様	
CPU	*		
HDD ☐IDE1 ☐IDE2			
CD-ROM ドライブ ☐IDE1 ☐IDE2			
システムメモリ (DRAM)			
その他のカード			

問題の説明：

付録 H. テクニカルサポートの受け方について

（ホームページ）http://www.abit.com.tw
（米国）http://www.abit-usa.com
（ヨーロッパ）http://www.abit.nl

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様に直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがいまして、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承いただきますようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行ってみてください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。**マニュアルの作成には万全の注を払っい、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。

2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。**弊社の Web サイトをご覧になり、バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。**また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、最新バージョンのドライバをインストールしてください。**

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。

4. **インターネットニュースグループをご利用ください。**ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ（alt.comp.periphs.mainboard.abit）はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

   alt.comp.periphs.mainboard.abit
   alt.comp.periphs.mainboard
   comp.sys.ibm.pc.hardware.chips
   alt.comp.hardware.overclocking
   alt.comp.hardware.homebuilt
   alt.comp.hardware.pc-homebuilt

5. **リセラーへお問い合わせください。**技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。

6. **ABIT へお問い合わせください。**ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様にサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

北米、南米	***ABIT Computer (U.S.A.) Corporation*** 2901 Bayview Drive, Fremont, CA 94538, U.S.A. 電話: 1-510-623-0500 ファックス: 1-510-623-1092 営業: sales@abit-usa.com 南米営業: ventas@abit-usa.com マーケティング: marketing@abit-usa.com ウェブサイト: http://www.abit-usa.com RMA Center: http://rma.abit-usa.com
英国、アイルランド	***ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.*** Unit 3, 24-26 Boulton Road, Stevenage, Herts SG1 4QX, UK 電話: 44-1438-228888 ファックス: 44-1438-226333 電子メール: sales@abitcomputer.co.uk
ドイツ、ベネルクス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス	***AMOR Computer B.V. (ABIT's European Office)*** Jan van Riebeeckweg 15, 5928LG, Venlo, The Netherlands 電話: 31-77-3204428 ファックス: 31-77-3204420 営業: sales@abit.nl ウェブサイト: http://www.abit.nl
オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、スロバキア、クロアチア、ボスニア、セルビア、マケドニア	***Asguard Computer Ges.m.b.H*** Schmalbachstrasse 5, A-2201 Gerasdorf / Wien, Austria 電話: 43-1-7346709 ファックス: 43-1-7346713 電子メール: asguard@asguard.at
上海	***ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.*** 電話: 86-21-6235-1829 ファックス: 86-21-6235-1832 ウェブサイト: http://www.abit.com.cn
ロシア、CIS	***ABIT Computer (Russia) Co. Ltd.*** 営業: sales@abit.ru Info: info@abit.ru ウェブサイト: http://www.abit.ru

ポーランド	***ABIT Computer (Poland) Co. Ltd.*** Przedstawicielstwo w Polsce ul. Wita Stwosza 28, 50-149 Wrocław 電話: 48 71 780 78 65 / 66 ファックス: 48 71 372 30 87
日本	ウェブサイト: http://www.abit4u.jp
台湾本社 *(上記以外の地域へのサービス台湾は 8+ GMT 時間でお客様の地域とは休日が異なる可能性があります。)*	***ABIT Computer Corporation*** No. 323, Yang Guang St., Neihu, Taipei, 114, Taiwan 電話: 886-2-8751-8888 ファックス: 886-2-8751-3382 営業: sales@abit.com.tw マーケティング: market@abit.com.tw ウェブサイト: http://www.abit.com.tw

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。

8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその 1 つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。

ありがとうございました。

ABIT Computer Corporation

http://www.abit.com.tw